

ツルムラサキの新病害について

2004年6月に鳴門市と吉野川市で、茎や葉、根に激しい腐敗が発生しました。この症状は特に台風等の激しい風雨の後に発生が多く、被害を受けた株では黒色の腐敗が地際付近の地上部の茎や葉から始まり、株全体が萎ちようし、さらに進行すると白い綿状の菌の発生が見られました。同定の結果、この病原菌はピシウム菌の一種であることが判明しました。現在この新病害の発生生態についての詳しい知見は得られていませんが、一般には本菌による病害は、高温多湿条件で発生しやすく、雨水等を介して伝染します。



写真-1 被害圃場



写真-2 発病株



写真-3 病原菌 (*Pythium aphanidermatum*)
の白い綿状菌糸



写真-4 病原菌 (*Pythium aphanidermatum*)
の孢子, 直径約0.02mm

大阪府立大学大学院生命環境科学研究科川村氏東條氏撮影

問い合わせ先

徳島県立農林水産総合技術支援センター

TEL (0883) 24-2217

農業研究所

FAX (0883) 24-2305

病害虫 担当

<http://www.green.pref.tokushima.jp/nogyo>